

# 投資家向け説明会

2019年6月

日産車体株式会社

1. ご挨拶	<p>それでは、目的事項であります、 報告事項1、第96期、すなわち、2018年4月1日から、2019年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容、続いて、報告事項2、第96期計算書類の内容につきまして、ご報告を申し上げます。</p>
2. 企業集団の現況	<p>まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過、及び、その成果につきまして、ご説明を申し上げます。</p> <p>当連結会計年度のわが国経済は、高水準な企業業績の維持や、個人の雇用・所得環境の改善による個人消費の回復基調に支えられ、緩やかな景気拡大が続きました。</p> <p>一方、世界経済は、米中の貿易摩擦問題や中国経済の景気減速懸念など、依然として先行き不透明な状況にあります。</p> <p>当社グループの属する国内の自動車生産事業においては、国内市場の中長期的な市場規模の縮小や、グローバル需要の鈍化、新興国を中心とした、海外現地生産の拡大、通商政策リスクに伴う輸出影響の懸念など、取り巻く経営環境の厳しさは継続しております。</p>
売 上	<p>このような経済情勢の下、当社が、日産自動車株式会社から受注しております自動車は、北米向け「アルマーダ」が減少したものの、中近東向け「パトロール(Y62)」や、北米向け「インフィニティQX80」が増加したことなどにより、前連結会計年度と比べ、売上台数は、8.3%増加の、22万9千901台、売上高は、7.9%増加の、6千028億円となりました。</p>
売上高	<p>次に、損益面でございますが、材料市況悪化等に伴う、コスト増加は有るものの、前連結会計年度は完成検査問題の影響による生産台数減少や、ラインスピード低下による生産性悪化影響があったため、営業利益は、64億円増加の77億円、経常利益は、64億円増加の81億円、となりました。</p>
純利益	<p>また、親会社株主に帰属する、当期純利益は、前期に特別損失に計上した「リコール関連費用」43億円の減少等により、78億円改善の55億円となりました。</p>
資金調達	<p>次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。</p>

<p>設備投資</p>	<p>続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。</p> <p>設備投資の総額は、約86億円で、新商品、マイナーチェンジによる商品力強化と、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。</p>
<p>連結計算書類 連結貸借 対照表概要</p>	<p>次に、連結計算書類でございますが、まず、2019年3月31日現在の、連結貸借対照表の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。</p> <p>資産の部合計は、2千685億円となりました。</p> <p>その内訳は、流動資産が、2千094億円、固定資産が、590億円で、45億円の減少となりました。</p> <p>一方、負債の部合計は、1千024億円となりました。</p> <p>その内訳は、流動負債が、897億円、固定負債が、127億円で、前期末に比べ、89億円の減少となりました。</p> <p>また、純資産の部合計は、1千660億円となりました。その内訳は、株主資本が1千671億円、その他の包括利益累計額が、マイナス11億円で、前期末に比べ、43億円の増加となりました。</p>
<p>連結損益 計算書概要</p>	<p>次に、第96期の、連結損益計算書の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。</p> <p>先ほど申し上げました、当社と、連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、81億円となりました。</p> <p>また、特別損失は、固定資産除却損等、2億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた、親会社株主に帰属する、当期純利益は、55億円となりました。</p>

<p>3. 対処すべき課題</p>	<p>では、対処すべき課題について、ご報告いたします</p>
<p>2018年度振り返り</p>	<p>はじめに、2018年度の振り返りについて、ご説明いたします。まず、生産台数の実績ですが、2017年に対して増産となり、2016年並みの23万台に戻りました。</p> <p>次に、生産工場の体制です。湘南工場は、昨年の下期から、それまでの昼夜2交替勤務体制から昼勤のみの勤務体制に変更いたしました。日産車体九州も、今年6月から、3交替勤務体制から2交替勤務体制に変更となっております。</p> <p>完成検査の再発防止策の進捗につきましては、導入に時間がかかる一部のシステム対応や ミッションステートメントの改定を除き、概ね完了に近づきました。最新状況は、14項目93アイテム中86件が完了し、残る7件につきましても 2019年度に継続して取り組んでおり、私を含め 関係役員とともに現場で進捗を確認してまいります。引き続き、これらの継続課題を確実に実行してまいります。</p>
<p>新型車</p>	<p>まず、NV200バネットは、今回のマイナーチェンジで、冬季の運転を快適にするクイックヒーターパックをメーカーオプションで新たに設定いたしました。エンジンの暖機を待つことなく、乗車された方を素早く温めることが可能になりました。</p> <p>エルグランドのマイナーチェンジは、先進安全装備を全グレードに充実させました。踏み間違い 衝突防止アシストや、緊急時のブレーキをアシストする「インテリジェントエマージェンシーブレーキ」などの他、車線逸脱防止支援システムなどを標準装備いたしました。</p> <p>最後に、20年ぶりにフルモデルチェンジを行ったパラメディックです。基準車両の変更などにより、緊急活動における使い易さ、走行性能などが一新されました。</p> <p>以上が、昨年度の振り返りについてのご説明となります。</p>

2019 年度取組み	引き続き、2017年からスタートしております中期経営計画の柱に沿って、2019年度の主な取り組みについて、ご説明いたします。
商品の競争力	<p>まずは、商品の競争力からご説明いたします。</p> <p>はじめに、今年度の新型車についてです。Y62パトロールの中近東向け大規模マイナーチェンジの立ち上げを予定しており、台数が低迷している中近東の巻き返しを図ります。</p> <p>次に、生産台数勝ち上げです。重点地域である中近東に加え、昨年から開始しました東南アジア、オセアニアの活動をさらに拡大してまいります。また、その他の世界各地域における勝ち上げ活動も継続的に実施してまいります。</p> <p>コンバージョン売上の拡大については、最近市場ニーズが高まりつつある専用色やツートン塗装などの仕様追加を検討しており、市場ニーズに対して、生産工場に対応するための方策を今年度の中で論議してまいります。</p>
工場の競争力	<p>つづいて、工場の競争力についてご説明いたします。</p> <p>昨年度、アルマーダにつきましては、北米の権威ある雑誌「コンシューマーレポート」からリコメンデッド(ご購入を推奨出来る車)という高い評価を頂くことができました。今年度も、市場とのダイレクトコミュニケーションをさらに充実させ、品質No.1を目指す活動を継続いたします。</p> <p>加えて、湘南、日産車体九州ともに、継続して設備総合効率の向上に取り組む、工場の品質・コスト・スピードの競争力強化を目指してまいります。改善活動を加速させ、グローバル市場からのご要望に対しまして柔軟に対応してまいります。</p>
技術・技能の競争力	<p>続いて、技術、技能の競争力です。</p> <p>こちらは、今年度取り組む主な技術テーマと、今後、当社が独自技術として取り組む年度の課題登録状況を示しております。更なる先進安全装備の技術開発を加え、ひとつひとつ着実に将来の新型車に向けた技術を蓄積してまいります。</p>

<p>すべての活動を 支える基盤</p>	<p>最後に、すべての活動を支える基盤についてご説明いたします。</p> <p>当社では、ライフステージに応じたワークライフバランスの適正化を実現し、働く人すべてが、その能力を十分に発揮できるよう、継続した活動を推進しております。その中で、昨年度から準備を進めてまいりました、当社が運営する保育園についてですが、4月1日に無事、開園を迎えることができましたことをご報告いたします。</p> <p>社内保育園の開園、在宅勤務の利用対象拡大など 様々な制度の拡充が進む一方で、アンケート結果によると、制度利用に気兼ねするといった声もあり、今年度は、各種制度を利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。</p> <p>以上が中期経営計画に沿ったご説明となります。</p> <p>対処すべき課題についてのご説明は以上になります。</p> <p>以上、「報告事項1」の内、事業報告の内容、連結計算書類の内容、並びに、「報告事項2」の、計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。</p>
<p>4. 2019年度の 業績見込み</p>	<p>ここで、2019年度の、当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、当社の売上高は、5千16億円を見込んでおります。</p> <p>また、営業利益、経常利益は、それぞれ、70億円、74億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する、当期純利益は、46億円を見込んでおります。</p> <p>以上が、2019年度の業績見込みでございます。</p>
<p>5. 配当について</p>	<p>なお、配当につきましては、安定した配当を継続的に行う、という配当方針に基づき、今回提案させていただいております、第1号議案『剰余金の処分の件』をご承認頂きますと、当事業年度の年間配当金は、13円となります。</p> <p>また、2019年度につきましても、同様に、年間13円を継続する予定でございます。</p>
<p>6. 閉会挨拶</p>	<p>皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。</p>